

崩れる楽園 惨劇再び

スマトラ沖M8.7

地割れがれきの

「津波来る」高台へ

【ジャカルタ＝黒瀬悦成】インドネシア・スマトラ島沖のインド洋で28日深夜(日本時間29日未明)に起きたマグニチュード8・7の大規模地震は、「サーファアの楽園」として世界的に知られる同島沖合のニアス島を一瞬にしてがれきの山に変容させた。住民らは、昨年12月のインド洋大津波に続く度重なる惨劇に打ちのめされ、疲れ果てた表情で救援の手を待っている。

「電柱は軒並み倒れ、道路は地割れで使い物にならない。電話も電気も通じない」。ニアス島の自治体幹部が複数の地元メディアに繰り返し訴えた。同幹部によると、今なお



29日、インドネシア・ニアス島でひつぎを作る地元住民（SCTVから、ロイター）

避難

多数の島民が倒壊した建物
 の下で生き埋めとなってい
 るが、がれきを取り除く重
 機がないため、約30人を救
 出した以外は手の施しよ
 がない。島内では、各地で
 橋が落ち、救援活動を進め
 ようにも移動さえままなら
 ないという。

世界食糧計画(WFP)
 によると、ニアス島に29日、
 担当官が入り、最大の町グ
 マンシトリで病院を含む約
 100棟の建物が倒壊して
 いるのを確認した。空港の
 滑走路は1500メートルわ
 って被害を受け、ヘリコプタ
 ーか小型飛行機でなければ
 着陸できない状況になって
 いる。

地元テレビ局SCTVが
 ニアス島を上空から撮影し
 た映像では、ヤシ林の合間

に広がる中心街で多数の建
 物やトタンぶきの民家があ
 ちこちで損壊しているのが
 確認できる。国軍機から島
 内の様子を目撃したAP通
 信記者は、グマンシトリで
 は建物の約30%が倒壊、2
 番目の町テルクタラムも大
 きな被害を受けていると報
 じた。

一方、同様に島の様子を
 上空から視察した政府の現
 地対策責任者は「被害は当
 初予測したより小さそう
 だ」との印象を語ったが、
 空港施設が破壊されたため
 地上に降りられず、現段階
 で被害程度を正確に把握す
 るのは極めて困難だ。

地震当時、住民らは津波
 を恐れて高台に避難した
 が、その後も中規模の余震
 が相次いだため、「自宅に
 戻っても構わない」との自
 治体当局の呼びかけに耳を
 貸そうとせず、防水シート
 で作った簡易テントで夜を
 明かす構えだ。

邦人無事ほぼ確認
 在メダン総領事館による
 と、スマトラ島などに滞在

勝・主任研究員を震源地近
 くのインドネシア・ニアス
 島と、アチエ州南部に派遣
 する。家屋の倒壊状況など
 を視察し、同国に助言する。
 昨年末の地震以来、スマ
 トラ島・バンダアチエで医
 療支援活動が続いているN
 GO「AMDA(アムタ)」

医師派遣、物資輸送へなど

師ら4人をニアス島に派遣
 し、医療活動などを行う。
 国際NGO「アジア・ア
 フリカ環境協力センター
 (ACEC)」(神戸市中
 央区)は、首都ジャカルタ

に、Tシャツ1000枚と
 車いす8台を空輸する。輸
 送費や毛布のカンパを募っ
 ている。問い合わせはAC
 EC(078・3992・3
 988)へ。

し、在留届を出している日
 本人は約450人。29日夕
 までに数人を除いてほぼ全
 員の無事を確認した。震源
 に近いスマトラ島西部周辺
 に日本人旅行者が滞在中
 いたとの未確認情報もある
 という。

(岡山市)は、現地に滞在
 するスタッフから29日早
 朝、国際電話で「津波被害
 はなく、市内ではけが人も
 あまり見あたらないが、ラ
 ジオなどではニアス島の被
 害が繰り返されている」と
 報告を受けたという。30日
 にもインドネシア支部の医

国内の防災機関やNGO
 などの中には、被害状況の
 把握や医療活動のため、ス
 タッフの派遣や救護物資の
 輸送を決めることも出て
 いる。アジア24か国で構成
 する国際防災機関「アジア
 防災センター」(神戸市中
 央区)は、31日から荒木田